

『T-SCAN hawk 2』の特徴

①大きな物や重い物でも移動不要で、どんな環境でも現場で測定が可能

三脚やスタンドが必要な測定器の場合、足場が悪い所や障害物が多い現場では使用できないこともありますが、『T-SCAN hawk 2』は小型かつ軽量のハンディタイプですので、スタンドなどで固定せずに測定を行うことが可能です。

また、最大4メートルまでの大型対象物を測定するためのサテライトモード機能を搭載。ハイパススケールでのワンショットキャリブレーション機能で、1つの測定位置のみでセンサーの再キャリブレーションを素早く実行できますので、温度変化による精度の影響を受けません。

弊社では日本全国への出張測定を行っております。大きさや重量があるため移動が困難な物、機密性が高く社外に持ち出せない物などを測定したい場合、弊社の技術者が測定器を持って現場まで伺います。

②光沢面・黒物が測定可能なブルーレーザー方式

従来のレッドレーザー式やカメラ式の3D測定器では、光沢面や黒物のスキャンには反射防止用スプレーの塗布が必要でしたが、『T-SCAN hawk 2』は波長の短いブルーレーザーを採用しているため、光沢面や黒物もそのまま測定が可能。また、微小で複雑な形状の対象物も高解像度で測定できます。さらに、深いポケット・狭いエリア・手の届きにくい箇所の測定も実現可能です。

③精度の必要な箇所のみ高精細モードで測定

一般的な3D測定器で高精細モードによる測定を行う場合、一箇所だけでなく対象物全体を高精細モードで測定するので、データ容量が膨大になってしまうというデメリットがありました。

『T-SCAN hawk 2』は、必要な箇所のみ高精細モードで測定し、それ以外は通常モードで測定して一つのデータにまとめることができますので、データ容量を大幅に軽減できます。

『T-SCAN hawk 2』の導入により、これまでは測定が困難だった対象物も手軽に測定できるようになりました。

測定のご用命・ご相談がございましたらぜひお気軽にお問い合わせください。